

## 2 字句解析

- ♣ 「字句解析」とは  か.
- ♣ 字句解析の  は.

### 2.1 字句解析とは

- 字句解析の仕事

1. 文字列中の字句 (単語, トークン) を認識する
2. それぞれの字句の  がわかるようにする
3. 字句を必要な  に変換する

- 字句の種類 (C 言語の場合 6 種類)

1.  (  )

変数や関数などの  を表す

main, a123, Max.Value のように,  と  からなり,  で始まる.

文字と  文字は区別される.  (アンダーライン) は英文字とみなされる.

2.  (keywords)

決まった意味で用いる語

C 言語では, 識別子として用いることはできない. このような語を特に  語 (  word ) という.

C 言語 (ISO-C90) では  個<sup>1</sup>

auto, break, case, char, const, continue, default, do, double, else, enum, extern, float, for, goto, if, int, long, register, return, short, signed, sizeof, static, struct, switch, typedef, union, unsigned, void, volatile, while

3.  (constants)

- ある特定の型の定数を表すもの

- 定数: 123 (  定数 ), 0123 (  定数 ), 0xae86 (  定数 )

- 定数: 'a', '0', '\n' (  ), '\t' (  ) など

- 定数: 1.23e6 (  ), 2.34e-12 (  ) など

<sup>1</sup>C 言語の新しい規格 C99 では, inline, restrict, \_Bool, \_Complex, \_Imaginary の 5 つが追加されている.

4.  定数 (  )  
2 重引用符 ( " ) で囲まれた記号列 ( "This is a pen." など)
5.  (operators)  
+, =, >>, ++, += など演算を表す記号
6.  (  ,  )  
;, ,, ( などの区切り記号
7. (番外)   
 ,  ,  ,  など、識別子を区切る以外は無視される  
コメント  
 と  で区切られた文字列で、 を含んではならない  
 から改行記号までの文字列

● 字句解析ルーチン

ー 字句解析の 2 形態

1. プログラム  に対して字句解析を行なう。

これに続いて  解析を行なう

2.  づつ解析しながら  解析を行なう

解析から一々  解析を呼び出す

ー いずれにしても、一字句を切り出す「字句解析ルーチン」を考えるとよい

1. 呼び出される毎に次の  を切り出す  
2. 指定された変数に、その字句の種類、値などがセットされる

## 2.2 字句解析の方法

● プログラムは

```
int fx()
{
    int ab=23;
}
```

というプログラムは、コンパイラから見ると

i	n	t		f	x	(	)	改	{	改		i	n	t		a	b	=	2	3	;	改	}	改
---	---	---	--	---	---	---	---	---	---	---	--	---	---	---	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---

という文字列に過ぎない (「改」は改行文字)。

ここから字句を  するのが字句解析の役割

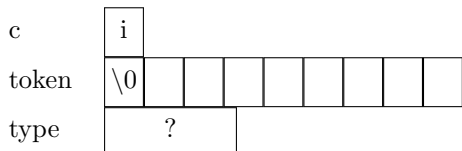
● 具体的な字句解析ルーチンの仕事

- ー 呼び出されると 1 つのトークンを切り出す。

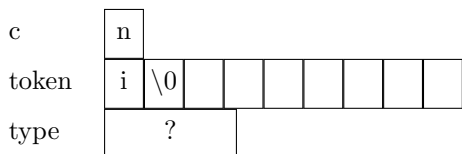
- 次の  だけが見えている (これを c とする).
- は読み飛ばす.
- 切り出したトークンを  (token とする) に格納する.
- トークンの  を指定された変数 (type とする) にセットする.

● 解析例

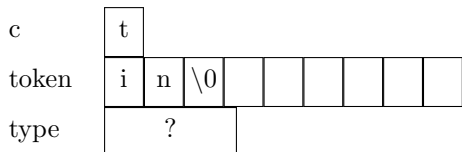
★ 1 回目の呼び出し



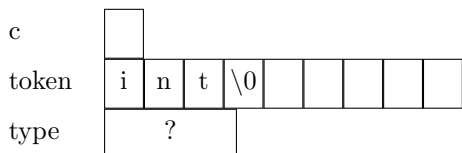
1. 'i' (  ) で始まる字句は  か  → 'i' を token に格納.



2. 次の文字が 'n' ということは, これはトークンの続き. → 'n' を token に追加

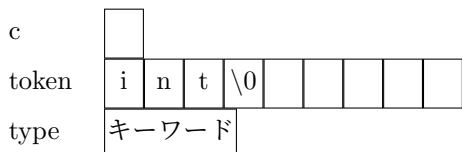


3. 同様に次の文字 't' を token に追加



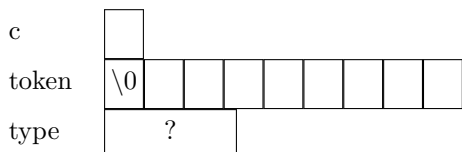
4. 次の文字 '=' があるので トークンは終りとわかる.

現在の token "int" は  である.

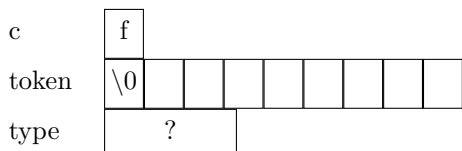


これで 1 トークンの切り出しが完了

★ 2 回目の呼び出し



1. 空白を読み飛ばす



2. c = 'f' (アルファベット) で始まるので, 識別子かキーワード → 'f' を token に格納.

c	x
token	f \0
type	?

3. 続く文字 'x' を token に追加

c	(
token	f x \0
type	?

4. 次の文字 = '(' なので トークンは終り.

現在の token "fx" は  ではないので,  と判定.

c	(
token	f x \0
type	識別子

これで 1 トークンの切り出しが完了

★ 3 回目の呼び出し

c	(
token	\0
type	?

1. c = '(' を見た時点で, これが一つのトークンであると判定できる. '(' をトークンに入れ, タイプをセットして終了.

c	)
token	( \0
type	左括弧

★ 4 回目の呼び出し

c	)
token	\0
type	?

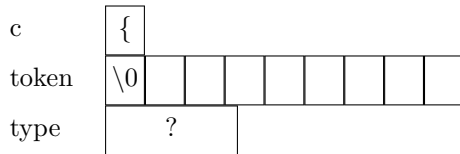
1. c = ')' を見た時点で, これが一つのトークンであると判定できる. ')' をトークンに入れ, タイプをセットして終了.

c	改
token	) \0
type	右括弧

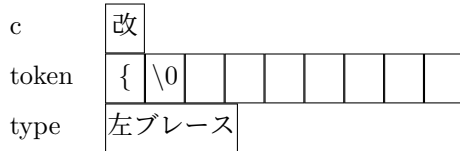
★ 5 回目の呼び出し

c	改
token	\0
type	?

1. 改行記号を読み飛ばす



2. c = '{' を見た時点で、これが一つのトークンであると判定できる。 '{' をトークンに入れ、タイプをセットして終了。



● 字句解析ルーチンのおおよその構造

[List 2.1]

```

void 字句解析 () {
    空白の読み飛ばし;
    if (先頭がアルファベット) { [ ] , [ ] の処理; }
    else if (先頭が数字) { [ ] 定数, [ ] 定数の処理; }
    else if (先頭が ' ) { [ ] 定数の処理; }
    else if (先頭が " ) { [ ] 定数の処理; }
    else if (先頭が記号) { [ ] および [ ] の処理; }
    else { エラー; }
}
    
```



Nagisa ISHIURA